

UNIVERSITY  
OF  
YAMANASHI

山梨大学附属図書館報

ISSN 1348-5458

# やまなし

2004.12.15  
vol.2  
no.2

## CONTENTS

2 座談会：  
これからの附属図書館

4 利用者の声

5 学生にすすめる本

5 研究開発推進室報告

6 利用者アンケート結果

8 図書館トピックス

図書館資料利用の手引き

その4 (Journal Citation Reports)

The Yamanashi  
Bulletin of the University of Yamanashi Library

# 座談会：これからの附属図書館

附属図書館長	オオトモ	トシアキ
	大友	敏明
教育人間科学部 2年次生	ワタナベ	カツヨシ
	渡辺	克吉
医学部 2年次生	アカネ	マオ
	赤根	真央
工学部 3年次生	マツムラ	ケンジ
	松村	健次



附属図書館では、より快適に利用される図書館を目指すために、「附属図書館の将来設計に関する調査研究プロジェクト」の学生協力委員である各学部学生から館長がお話を伺いました。

大友：普段はどのように図書館を利用していますか。

赤根：レポートの参考文献の利用，試験前などの勉強の場，という2つの形で利用しています。勉強の途中で分からない所があれば，すぐに調べることができます。

大友：分館は勉強する環境としてはどうですか。

赤根：基本的には静かですが，学習室で騒いでいる人がいると少しうるさくなります。

大友：今2年生ですが，データベースや電子ジャーナルなどは利用していますか。

赤根：たまに使います。

大友：図書館の情報リテラシー教育といった講習会に出たことはありますか。

赤根：ありません。看護学科には授業があるようですが，医学科にはありません。

松村：レポートはインターネットで足りるので，僕が利用するのは定期試験や資格試験の前など，集中して勉強したい時ぐらいです。

大友：インターネットでとりあえずの情報量は確保できるので，最近は図書館の利用者が減っています。原典になった本を読まない学生も結構いるようです。ネットから先の指導，図書館に行き資料を見ろという教育が不足しているのは教員側の責任です。

松村：3年生までは教科書で講義という形の授業なので，自主的に調べる気持ちは湧いてきません。参考図書は挙げてくれるだけなので，読む必要はそんなにありません。

大友：3年生になると専門性がかなり高くなるから，より専門書が必要になるのでは。

松村：でも絶版だったり，図書館にもなかったりする。検索して見つけても研究室にある。

大友：そこがうちの大学の大きな欠陥です。研究室など，図書館以外に配架されていて，他の利用者が利用できない。ある意味では死蔵していることになるので，改修・増築をしてより多くの本を図書館に配架したい。甲府キャンパス46万冊の蔵書のうち，本館には15万冊しかない。あとは研究室や書庫にあります。本はあるけど貸せない。

渡辺：僕もレポートと，学習スペースとしての利用が多いです。レポートは大抵インターネットを使っています。僕の周りには，附属図書館の専門書よりも，市立図書館にあるような一般的で易しい本を使う人が多く，中には附属図書館に2～3回しか行ったことがない人もいます。卒論，教育実習などで必要に迫られれば使うと思うのですが。

大友：入門ゼミでは，勉強方法などを教えてくれますが，図書館の使い方は？

渡辺：教わっていません。文献リストはくれますが，あとは自分で探してと言われます。

大友：情報リテラシー教育を受けたことは？

渡辺：教育実践論という授業はありますが、自分が情報をどう取り扱うかという授業はあまりやっていません。

大友：情報リテラシーにもレベルがあります。1年次に入門レベルの実習で図書館の利用法を身につけて、必要な時期に電子ジャーナルやデータベースなどの高レベルの指導があれば、高度な利用もできる。あるものが使えていないのは問題ですね。

学生から見た附属図書館の問題点を率直に指摘してください。

赤根：医学分館は24時間の特別利用がとていい。施設面では、空調、2階の自動照明、足音などが気になります。個人席と、新しい図書をもう少し充実して欲しい。

松村：本館2階の個人席は周囲の音が入り易いので、グループ学習室を真中にした方がいい。視聴覚室の資料を選ぶ基準が分からない。ミニシアターのような設備が欲しい。

渡辺：午後8時閉館は、早いと思います。あと、資料の選び方、見つけ方が分かりません。本も古い。学部の書庫にある図書の扱いが一貫してなくて、心理学では書庫整理をして本を図書館に持ってきたのに、教育学では本が全部書庫に残っていたりする。

大友：法人化のために蔵書点検をして、一部は図書館に持ってきたのですが、図書館にはすぐに配架できるスペースがないのです。

では、この図書館を増築・改修するとして、これからどうあるべきか、理想論で結構ですから挙げて下さい。

赤根：広く静かであることが大事です。自販機などのある休憩所と、外出時に物を置けるロッカーが欲しい。24時間の特別利用の時間帯にも本を貸し出して欲しい。

松村：基本的には飲食禁止だけど、カフェみたいな休憩場所では自由にできる、というメリハリがあるといい。日曜日にも開館して欲しい。プリンターがあった方がいい。

渡辺：もう少し開館時間を長くして欲しいです。パソコンにはRWの機能が欲しい。あと、テスト期間になると、満員で使えません。

大友：パソコンの数はもっと必要ですか。

松村：僕は他の施設も使えるので別に。

渡辺：僕は学科の控え室と、分室の端末が使えますが、分室はプリンターが使えないし、テスト期間になると満員になってほとんど利用できない。閲覧室には個人席を増やすか、大きい机に仕切りが欲しい。グループ学習室は以前の方が静かでもよかった。とにかく学生が自分から行こう、と思えるような便利さが欲しいですね。資料の見つけ易さ、使い易さを追求して欲しい。



大友：調査研究プロジェクトで他大学に行くと、新しい図書館は全部学習図書館に特化しています。研究図書館としての利用が電子図書館に移り、教員が図書館に足を運ぶ頻度が非常に低くなったので、滞在型の図書館、学生の居場所としての図書館というコンセプトでつくっている。図書館の中にカフェやリフレッシュルームがあるし、携帯ルームを作るなど現代の学生に合わせている。学生用研究個室があり、グループ学習室の利用人数にも多様性がある。学生は自由に過ごせるので、必然的に滞在時間も長くなります。

図書館が大学のセンターとして、利用者がいつも立ち寄る場所であるために、目指す方向は「学習図書館」と「研究者支援としての電子図書館」に分かれたと感じます。

学生の皆さんのニーズを、図書館のコンセプトとしてできるだけ吸い上げていき、今まで以上に利用される図書館を目指したいと思います。

本日はありがとうございました。



## 山梨大学附属図書館と私

山梨大学名誉教授 <sup>クヌギ トシオ</sup> 功刀 利夫

私は図書館が大好きである。平成10年3月に定年退官して早くも6年半経つが毎月数冊の本を借り期限までに返却し、また借りる。月5冊としても1年で60冊、すでに400冊位読んだことになる。沢山の本を腕が痛くなるほど吊るしキャンパスの桜の日、青葉の日、暑い夏、紅葉の秋、そして木枯らしの中を図書館に足を運ぶ。

1冊の本には著者の生涯を賭けた仕事が凝縮されている。先人たちの膨大な業績の積み重ねの上に人類はまた新たな思考を試み前進する。人は未知の事を学ぶこと、困難を乗り越えることに喜びを感じる本性がある。

図書館利用の目的はさまざまである。利用者は各自の目的に応じて図書を選ぶ。ある時は興味の赴くまま楽しい読書をし、ある時は目的達成のために学ぶ。学生は試験やレポートのための図書館利用が多い。

私は退職後あらゆる分野に興味をもち本を選ぶが、特に歴史に関する本が多い。また、書き物のために本を読むことが多い。一例を挙げれば昨年『渋江長伯著官遊紀勝 注釈と余話』を自費出版した。この原本は筑波大学図書館の和漢特別貴重図書にあった。内容は約200年前將軍徳川家齊の命で侍医渋江長伯が甲斐を訪れ、甲州街道、甲斐の名所・旧跡を判り易い和文と絵で綴った紀行文である。山梨、筑波両大学図書館の皆様のご好意により大学間文献サービスにより全八巻を複写して頂いた。直ちに翻刻し、絵図174景と、私の解説と写真を加え理解し易い本にした。両大学の図書館に寄贈してあるのでぜひご一読下さい。またこの本を基にして、山梨工業会会報（工学部同窓会誌）に「学生時代の思い出の地 甲府とその周辺」をシリーズで書いており、10月号は「積翠寺と武田信玄」です。工学部学生には無料配布されています。

所蔵案内：『渋江長伯著官遊紀勝 注釈と余話』  
本館 2階一般書架、分類：092.9

## 利用しやすい図書館

医学部看護学科 3年次生 <sup>カガワ サチコ</sup> 香川 祥子  
(医学分館夜間カウンター担当)

「きょう、図書館で勉強していく？」一日の実習を終えた私たちの間で普段交わされる会話です。医学分館のカウンター業務を始めてから1年半、図書館利用者として2年半になる私ですが、看護学科3年生になり実習が始まると、図書館はますます勉強に必要な場所となってきました。

この図書館には勉強するのに良い環境が整っています。まず、自分が調べたい事が掲載されている資料はOPACという蔵書検索で探す事ができ、学内に所蔵がない資料は、カウンターで申し込めば他から取り寄せる事もできることです。

さらに、学生にとってありがたいのが学習室の存在です。医学分館では申請しガイダンスを受講すれば、この学習室を24時間いつでも利用でき、みんなとわからない所を相談しながら勉強ができます。グループ学習の場として、自分達の都合に合わせて勉強ができる上、みんなが勉強している姿が見えるので、自分自身の励みにもなり効率よく勉強が進みます。静かな雰囲気の中で、自分の好きな時に調べ物や文献の複写をし、図書館にこもって試験勉強やレポートの作成ができ、また友人と励ましあえる場所でもある図書館は私にとって強い味方です。

今後もこのように利用し、自分の勉強に役立てるだけでなく、他の利用者の方にも心地よく医学分館を利用してもらえるようにお手伝いをしていきたいと思います。

## 『障害をもつ子を産むということ - 19人の体験』

野辺明子・加部一彦・横尾京子 編

中央法規出版 1999

医学部看護学科 臨床看護学(母性看護学) コバヤシ ヤスエ 小林 康江

「障害をもつ子どもが生まれるということは何も特別な問題ではなく、誰にも、どんな家庭にも起きうる問題だからだ。ここに収められた19編の手記をごく身近な隣人たちの物語として読んでいただけるとうれしい。」(はじめにp3)

この本は、生まれたわが子に障害が...、その衝撃と不安、周囲の目、医療者の対応などが体験者である19名の親の声で綴られています。

本を読むと、「正常であること」「普通であること」に対する周囲からのプレッシャーがどれ程きついか、ショックの中でわが子を受け止めやがて障害をも含めて「かわいい」と思う親たちの姿、生まれた子に「おめでとう」と言って欲しいと思う親の気持ち、そして障害を持つ子

どもを育てる親が周囲から受けるプレッシャーをはねのけることができたのは、他でもないその子どもの存在であることなどがわかります。

医療者の対応も率直に書かれていて、読むたびに考えさせられます。「親と子が最初に出会う場がその後の親子関係の出発点であるならば、障害を持つ子どもが生まれた場合こそ、医療関係者の細やかな配慮が欠かせない。」(はじめにp2) どの手記からも感じられるのは、親たちは「わかって欲しい」と思っていること。そしてその場にいる医療者はその人たちの心の内を聞くこと、知ることによって目を背けてはいけないということです。

医療に従事しようと思っているみなさん、親になろうと思っているみなさんには、ぜひこの本を読んでいただきたいと思います。



所蔵案内：  
『障害をもつ子を産むということ - 19人の体験』  
分館 第3閲覧室、分類：WS107.5/SHO

## 大型コレクション「スピノザの作品と影響」の公開に向けて

モリタ シュウジ  
附属図書館研究開発推進室員 森田 秀二

本学図書館には、108点からなるスピノザ文庫が存在します。この貴重なコレクションを一般公開すると同時に、スピノザと彼の時代を紹介する展示・講演・音楽会などの一連の催し物の企画が進行中です(2005年7月開催予定)。

バルフ・スピノザ(1632-1677)は、デカルト、ライプニッツと並び称される合理主義哲学者。繁栄を誇る17世紀オランダ(共和国)はアムステルダムのポルトガル系ユダヤ人の商人家庭に生を受けます。自由な宗教観ゆえに24歳にしてアムステルダムのユダヤ共同体から破門・追放されてしまい、その後、各地を転々として思索・執筆を続けました。レンズ磨きにより生計を立てたという

逸話は怪しいようですが、彼の生き方自体がドラマそのもの。生年を同じくする同時代人フェルメール(1632-1675)の絵を通して、スピノザが吸っていたはずの当時の町人社会の空気を想像することもできそうです。

本コレクションには、スピノザの著作の初版本・翻訳、重要なスピノザ研究書、当時の政治・文化に関する原典資料などスピノザ関係の貴重な書籍が含まれます。当初よりコレクションに関わってこられた佐藤一郎先生(教育人間科学部)に、解題をはじめ講演など企画面でも協力して頂くことになっています。スピノザの今日的意義や、彼が生きた時代なども含め、スピノザを多面的に紹介できるような企画になればと願っています。

山梨大学附属図書館所蔵コレクション案内：<http://www.lib.yamanashi.ac.jp/collect/collect7.html>

# 「附属図書館利用者アンケート」集計結果報告

附属図書館では図書館の利用等に関する自己点検を行うために本学の学生・教職員を対象として7月～8月にアンケートを実施しました。この結果を踏まえ、今後の図書館サービスの向上に役立てるよう努力していきます。

回答にご協力いただきました方にはお礼を申し上げます。また、アンケート配布及び回収に便宜を図っていただきました各学部関係各位にはお礼申し上げます。なお、紙面の関係ですべての結果を掲載できないことをご了承ください。

## 1. 回収状況

### 本館

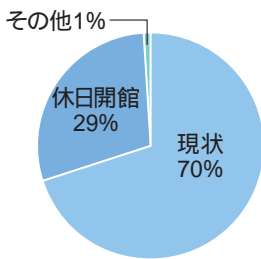
配付数	回収数		回収率
4,110	2,685		65%
	有効	無効	
	2,644	41	

### 医学分館

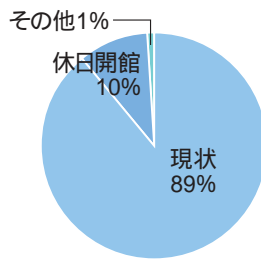
配付数	回収数		回収率
1,809	1,281		70%
	有効	無効	
	1,248	33	

## 2 - 1. 開館日

### 本館

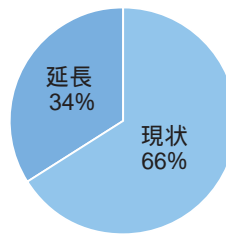


### 医学分館

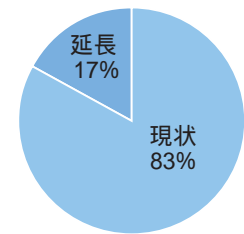


## 2 - 2. 開館時間

### 本館

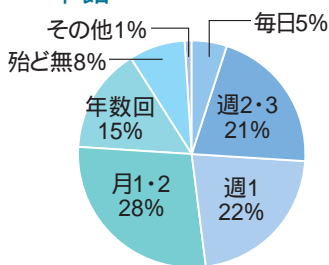


### 医学分館

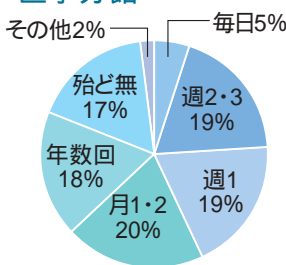


## 3. 利用程度

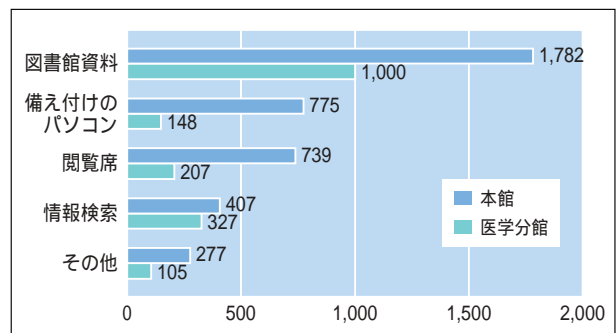
### 本館



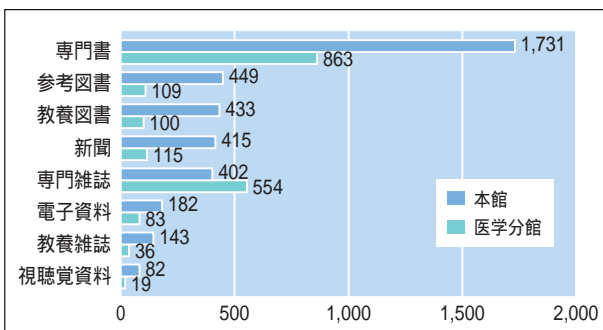
### 医学分館



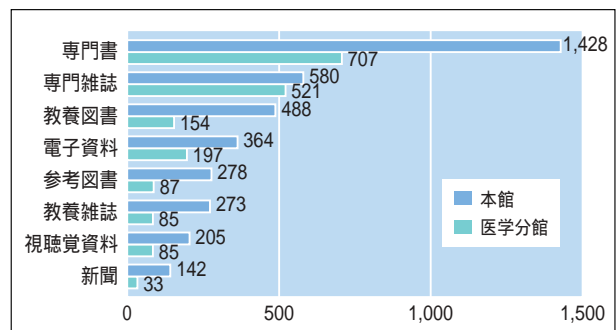
## 4. 目的 (複数回答)



## 5. よく利用する資料 (複数回答)

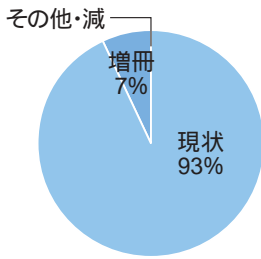


## 6. 充実すべき資料 (複数回答)

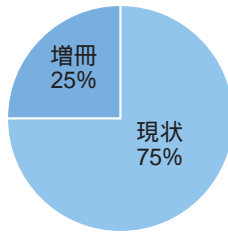


### 7 - 1 . 貸出冊数

#### 本館

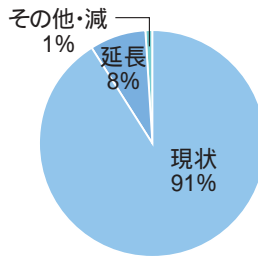


#### 医学分館

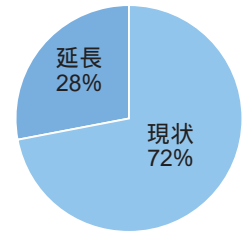


### 7 - 2 . 貸出期間

#### 本館

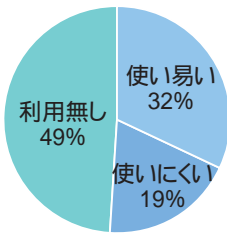


#### 医学分館

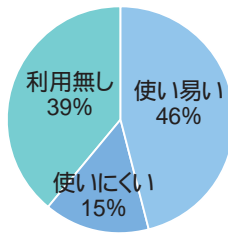


### 8 - 1 . OPAC

#### 本館

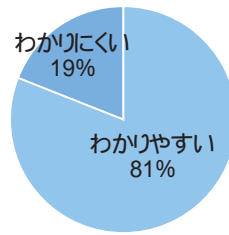


#### 医学分館

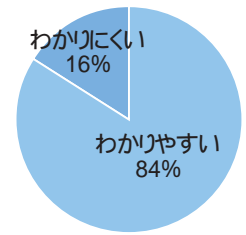


### 8 - 2 . 資料配置

#### 本館

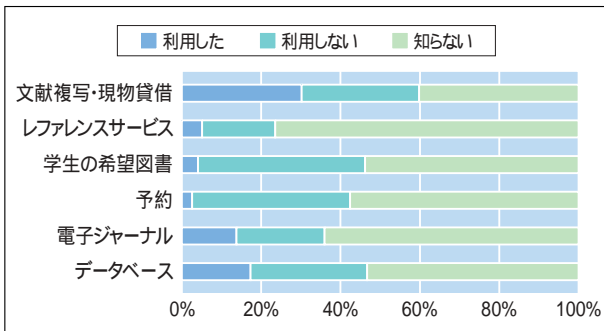


#### 医学分館

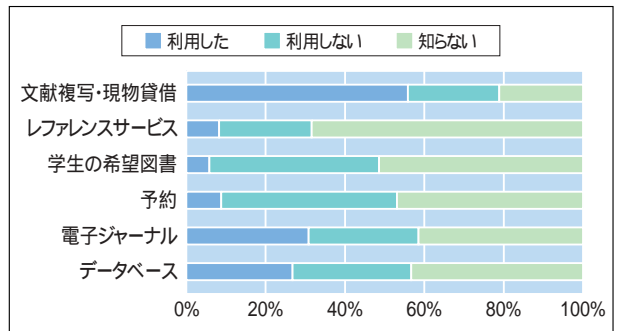


### 9 . サービス

#### 本館

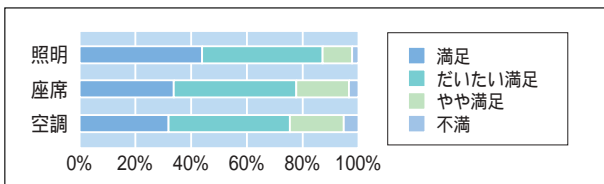


#### 医学分館

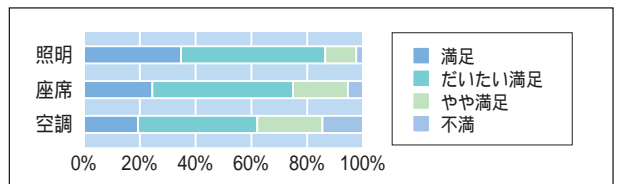


### 10 . 設備

#### 本館

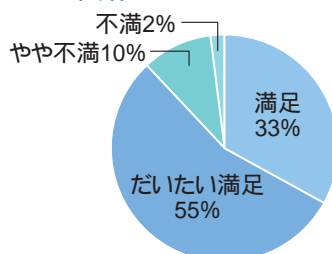


#### 医学分館

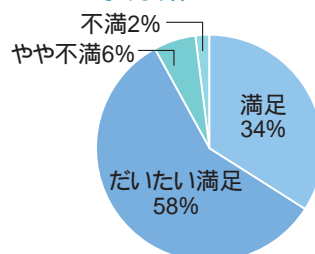


### 11 . 図書館員の対応

#### 本館



#### 医学分館



## さとうわきこ講演会の開催

子ども図書室では、地域貢献事業の一環として11月24日絵本作家のさ



とうわきこさんを講師に迎え、「絵本が生まれるとき ばばあーちゃんからの贈り物」と題して講演会を開催しました。

会場は、学生・教職員・地域の親子連れ等絵本に興味を持つ約150名の参加があり、作品を紹介しながら執筆のエピソードや作品への思いを語るさとうさんの巧みな話術に、終始笑いの絶えない和やかな雰囲気となりました。

当日は、学生ボランティアが事前に希望があった子どもさんの保育を担当し、教諭職を目指す学生にとっては保育を肌で感じる事ができ、進路を考える上で大変参考になったようです。

## 山梨県図書館大会報告

第20回山梨県図書館大会が“ Step by step!! - 活用される図書館をめざして - ”をテーマに、10月29日田富町総合会館を会場に開催されました。当日は山梨県内の図書館関係者、図書館利用者、図書館ボランティアなど約230名が一同に会し、活発な報告及び討議が行われました。山梨大学からは情報サービスグループ北原



夕里歌さんが第3分科会「IT技術と図書館」で“オンライン情報を活用したサービスの実践”として事例報告をしました。

## お知らせ

### 学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般社会人の方々も利用できます。詳細については、<http://www.lib.yamanashi.ac.jp>をご覧ください。

### 図書館資料利用の手引きの活用法

各号で紹介する「図書館資料利用の手引き」は本体から取り外し、バインドして保存することにより、効果的な利用が可能となりますので、大いに活用してください。

## 利用者講習会報告

附属図書館では、12月2日甲府・玉穂両キャンパスにおいて“論文検索から論文管理まで”をテーマに畠中正己氏(ユサコ)を講師に迎え、研究支援・学習支援を目的とした利用者講習会を開催しました。今回は、7月に開催したOVIDデータベース講習会に続き、文献管理・論文作成支援ソフトである「EndNote」を利用して、データベースで検索したデータをどのように管理するか、論文作成に役立てるかといった実践的な文献管理法についての説明に、全体で約100名が参加し、活発な質疑応答がありました。



## “生と死のコーナー”関連講演会の開催

医学分館では、地域貢献事業“生と死のコーナー”関連行事として、10月20日言語聴覚士の平澤哲哉氏を講師に迎え、「地域でことばを失った人を支える - 失語症者の在宅訪問ケア」と題して講演会を開催しました。当日は大型台風の来襲という悪天候ではありましたが、ご自身の20年の経験に基づいた、治療を受ける方々とのコミュニケーションや地域で行う訪問ケアについての講演は、たいへん好評でした。



### 山梨大学附属図書館報

#### 「やまなし」

第2巻第2号

2004年12月15日発行

編集：館報編集委員会

発行：山梨大学附属図書館  
〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37  
TEL 055-220-8063

印刷：株式会社 少国民社

表紙撮影：図書課総務グループ係長 田中成人  
場 所：玉穂キャンパス 医学分館前